

平成27年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

平成28年4月1日

学校法人 電波学園
ぎふ国際高等学校

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校経営全般	
2	今年度目標	①安心・安全な環境の提供 ②教育の質的向上 (教育環境の充実・教科指導力の向上とカウンセリングマインドを持った教育相談) ③多面的な情報発信 ④特別活動の充実	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①教員の校内外の巡視強化と素行面で心配な生徒の受入れ不可を徹底 ②非常時に対する事前対応策の確立 ③校内外研修の参加 ④岐阜県内の中学校や高校・適応指導教室等との連携強化 ⑤生徒の意見や職業体験を踏まえた社会研修先を決定	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①校内外の巡視を当番制にする。 ②発達障がい専門医による校内研修実施する。 ③インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践する。 ④中学校・高校・適応指導教室等の訪問や各種の合同説明会に参加する。 ⑤姉妹校専門学校での体験学習や多様な講習会を実施する。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①教育方針や指導目標について分りやすく説明を受けている。 ②個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。 ③学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。 ④学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足している。	A Ⓑ C D Ⓐ B C D A B C D A Ⓑ C D Ⓐ B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①落ち着いた雰囲気です授業を受けことができ校内も落ち着いている。 ②頭髪・服装等の生活指導を受ける生徒がなかなか減少しない。 ③追試験を実施し、勉学に対する甘えを払しょくし、補習授業も実施した。 ④中学校・高校・適応指導教室等と情報交流と連携強化ができた。	Ⓐ B C D A B Ⓒ D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①タブレットによる学び直し(Thanksドリル)の授業の研究と実践 ②週5日登校コースの設置 ③外国人講師によるネイティブ英会話の実施 ④専門学校・大学講師による特別授業の実施 ⑤アンケートの結果の中で「わからない」と回答した保護者や生徒に対しても、更に情報発信を行うよう努め、理解と達成が得られるよう、学校全体で取り組んでいきたい。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教務(教育課程・学習指導)				
2	今年度目標	①勉学への意欲向上 ②基礎学力の向上 ③発達障がい、低学力、外国籍の生徒への対応				
3	目標達成に向けての取り組み方法	①学力不振な生徒に補習授業を実施する。 ②勉学への甘えを払しょくさせるために、追試験を実施する。 また、試験前に補習授業を実施し、勉学が苦手な生徒をフォローする。 ③ICTの研究・活用				
				評 価		
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①授業後や追試前に補習実施。 ②追試験の実施によって、試験に真剣に取り組む様子が見られた。 ③次年度教材を導入すべく、業者の選定を行った。授業ではICTをあまり活用できなかった。	A	(B)	C	D
			A	(B)	C	D
			A	(B)	C	D
			A	B	C	D
			A	B	C	D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①落ち着いた環境で熱心な授業が行われている。 ②家庭学習が定着してきている。 ③基礎学力が定着している。	A	(B)	C	D
			A	B	(C)	D
			A	B	(C)	D
			A	B	C	D
			A	B	C	D
6	総合的に捉えた成果・課題	①追試験の導入で、勉学への甘えを払しょくさせることができた。 また、補習により追試験を余裕をもって合格させることができた。 ②基礎学力の定着を実感させていない。	A	(B)	C	D
			A	B	C	D
			A	B	(C)	D
			A	B	C	D
7	次年度に向けた改善策・目標	①次年度、Webを使った学習教材を導入し、授業でも利用するとともに個々でもスマートフォンなどを利用させることで、基礎力の向上を目指す。利用頻度が低い生徒、学習意欲の少ない生徒に声掛けし、学力向上を図る。 ②学力の低い生徒への補習を実施し、追試験を受験する生徒を減らす。				

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	生徒指導	
2	今年度目標	①生徒が、安全・安心に登校できる学校づくり ②生徒ひとりひとりが規範意識をもてるようにする	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①個別面談、玄関・校内指導 ②高校生のびのびプロジェクト活動 ③MSリーダーズ活動、該当啓発活動の参加 ④地域市民活動への参加、清掃活動 ⑤エコキャップ運動、募金活動、マナー啓発活動	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①玄関での「声かけ」と校内巡視を行い問題行動を事前に察知する。 ②個別面談を実施し、より多く生徒の悩みや不安を聞く。 ③6・26ヤング街頭キャンペーンの参加や「ダメ、ゼッタイ。」普及運動における薬物乱用防止の取組発表を行う。 ④MSリーダーズの加入生徒の増加を行う。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D A B C D A (B) C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①マナーや社会のルールを守るように適切な指導を行う。 ②個性に応じた服装、頭髪等の適切な指導を行う。 ③いじめや対人トラブルが発生しないための指導、また速やかな対応を行う。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①全体的にはだいぶ落ち着いて生活できているが、一部特定の生徒がたびたび指導を受けるようなことがある。 ②ルール、マナーを守るという点においては、まだまだ注意指導をされる者が多く、規範意識をもっと指導する必要がある。	A (B) C D A B C D A B (C) D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①落ち着いた学校生活を送ることができるように、安全・安心な学校づくりを行う。 ②生徒ひとりひとりが、他人に迷惑をかけることなく規範意識をもって生活できるよう、高校生が組織する規範意識啓発推進委員会(MSリーダーズ)による啓発活動をサポートし、また、規範意識を育てていくために情報の共有と共通理解や共通指導を行っていく。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	教育相談	
2	今年度目標	①カウンセリングマインドを持った教育相談を全職員が心掛けることができる。 ②生徒指導 教育相談 臨床心理士 担任との連携がしっかりとした体制を作り上げる。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①個別面談、朝の玄関指導、校内巡視の充実 ②発達障がい専門医による校内研修実施 ③県教育相談担当会での情報伝達	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①生徒指導、臨床心理士と連携し、細やかに行うようになってきた。 ②学ぶことが多かったため、計画的に、さらに深く機会をもち、交流もしたい。 ③情報伝達の内容精選については、課題が残るので考えたい。	A (B) C D A (B) C D A B C D A B (C) D A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	評価表 保護者用19番 23番 生徒用19番 22番 の集計結果より ①いずれもABC評価までの割合(おおむね達成)が合計90%をしめる。 ②しかし、全く満足できなかったと回答した割合が5~7%をしめる。	A (B) C D A (B) C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①全体的に、生徒に対する相談体制が安定かつ充実しつつある。 ②生徒及び保護者に対する教育相談力の向上のため、教員向けの研修がたびたび必要である。	A (B) C D A B (C) D A B C D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①教育相談の職員校内研修を充実させていく。 ②インクルーシブ教育について学ぶ研究実践計画を手掛けていく。 ③生徒指導 教育相談 臨床心理士 担任の連携をさらに決めこまやかに図る。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	進路指導	
2	今年度目標	①社会性とコミュニケーション能力の向上。 ②適性や長所等の自己理解を深める。 ③具体的な進路目標を早期に持たせることにより、主体的に自己実現を図る。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①小規模の説明会を実施。四大・短大・専門・就職希望者に応じた説明会を2～3回実施 ②全ての学年の学級担任及び教科担任が、常に進路指導を意識して生徒の前に立つ心構えをもつ。 ③進路指導だよりを定期的に発行し、生徒の意識を啓発する。 ④ 大学や専門学校へ進学した先輩の話を開く場を設けたり、先輩の言葉を掲示する。 ⑤進路関係の校内掲示を充実させる。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①希望分野別小説明会該当者の5割強が参加。生徒の意識を高めることができた。 ②進路に関する情報の共有を進路だよりや、職員会議を通じて行った。 ③毎月進路だよりを発行し、今月来月の予定を生徒に周知。同時に本校HPでも案内。 ④2年次生対象の進路説明会にて先輩の体験談を実施。 ⑤進路指導室前の掲示板へ進路情報の掲示。1階玄関横に先輩の写真を掲示。	(A) B C D (A) B C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①生徒は進路説明会の実施に対しておおむね満足の評価をしている。 ②保護者は進路説明会の実施に関してはおおむね満足と思われる。 ③保護者は個別の生徒に対する進路指導の支援が弱いと考えられている。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D A B C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①進路決定率は例年並みを確保。小説明会の効果と思われる。 ②四大希望者に学内外の模試を推奨し、適切な進路指導ができた。 ③ハローワークから講師を招き、面接指導の充実を図った。 ④個人面談を中心にした個々の生徒に応じた進路指導の実施と保護者に対して「HP等を使った実施内容の公開、連絡」の徹底を図られた。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D A (B) C D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①キャリア教育の教材を総合の時間に利用してもらい、生徒の意識を均一なレベルに引き上げる。 ②先輩の体験談を聞ける機会を増やす。 ③進路だよりと職員会議を利用し、キャリア教育の取り組み具合の均一化を図る。 ④上記手段を通じ「職員全員の協力による進路指導」の実現。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	特別活動(社会見学・異文化体験・修学旅行)		
2	今年度目標	①校外活動(遠足)に関しては前期・後期各1回実施し、普段の授業では得られない学習、級友との会話、自己の向上を目指し参加できることを目標にする。 ②韓国への異文化体験研修旅行実施と海外事情に関する講演会を実施する。 ③修学旅行は、昨年度参加率58.8%を上回る参加を呼びかける。		
3	目標達成に向けての取り組み方法	①各担任および特別活動担当との間で緊密な事前協議を行い、生徒に対して特別活動の意義等の周知徹底を図る。 ②JICAによる派遣経験者による講演会の実施。 ③旅行会社との打合せ、特別活動担当・担任との話し合いを通じて有意義な活動になるよう準備する。 ④生徒に対する見学地・旅行先の事前アンケートの実施。		
		評 価		
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①集団行動の大切さや時間の確認などをくり返し行い、生徒への周知を十分に行えた。 ②韓国への異文化体験旅行は、希望調査段階では催行人数は集まったが、旅行直前に「マーズ」が流行し、やむなく中止した。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D A B C D	
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①子どもの成長の糧になるような特別活動を行っている。 ②見学地・旅行先や実施回数等は、全体的に好評であった。	<input checked="" type="radio"/> A B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D A B C D	
6	総合的に捉えた成果・課題	①見学地での集合時間を遵守できず、遅刻する生徒がいたため、集団行動の規律を守らせきれなかった。 ②修学旅行の第1回アンケート(10月)・第2回アンケート(1月)後に、経済的理由から14名のキャンセル者を出してしまった。	A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C D A B C <input checked="" type="radio"/> D A B C D	
7	次年度に向けた改善策・目標	①事前指導の時間を活用し、集団行動の大切さ、時間管理の大切さをくり返し学習させる。 また、タイムスケジュールの明確化や職員内で集合時間に遅刻の恐れのある生徒の情報共有をし、未然に防ぐよう努める。 ②異文化体験旅行の旅行先は、英語が話せる香港等で検討する。 ③修学旅行直前のキャンセル数減のため、生徒の気持ちを高揚させるため、グループ学習の時間を取り入れる。		

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	保健指導	
2	今年度目標	学校での保健活動(健康診断をはじめとした、保健領域での活動や指導)を保護者の方にも広く知ってもらえるようにする。	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①「ほけんだより」の毎月の発行と共に、HPにも掲載する。 ②保健指導として2年次生対象に「医薬品について」の講演会を計画、実施(薬剤師が講演)する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①HPに掲載することによって保護者の方にも見てもらえる機会が増えた。 ②生徒の実態を把握し、普段疑問に感じていることを中心に講演会の内容を考えて実施することができた。今後は、実生活の中でも活かしていけるよう啓蒙する。 (講演会実施後に行ったアンケートでも理解した、今後はそうしようと思うなど、見直すことができたと答えた生徒が多数であった。)	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D A B C D A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①流行している感染症について、校内での流行となることなく努めることができた。 ②毎月の保健だよりの発行を通じ、様々なテーマで健康管理を意識させることができた。 ②教育相談担当・保健室と連携し、必要に応じ情報共有しながら対応できた。 ③SRメールやHPを活用し、緊急時の対応の確認マニュアルが整っていた。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A <input checked="" type="radio"/> B C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①講演会や「ほけんだより」の毎月の発刊ができた。 ②保護者の方に学校の保健活動、指導がどこまで伝わっているのか実態を把握するのは難しい。	A <input checked="" type="radio"/> B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D A B C D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①今後も継続し、保健指導の中に薬剤師と連携し、より充実した指導ができるよう検討していく。 ②保護者の方にもアンケートの実施を検討していく。 (保健指導に関する内容、例えば健康状態や普段の生活の様子を見ていて学校で指導してほしい事など調査し、計画するなど) ③「ほけんだより」・講演会の様子等のHPにUPする以外の情報発信の方法も検討していきたい。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	学校図書	
2	今年度目標	①生徒の実情に合った図書選定、購入 ②蔵書管理のIT化と貸し出しの増加	
3	目標達成に向けての取り組み方法	①希望図書のアンケートの実施 ②図書部の活動の充実	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①アンケートは実施できたが作品名など具体的な意見は少なかった。 ②アンケートが記入しやすいように質問内容を十分に検討できなかった。 ③年間を通しての図書部としての活動ができなかった。	A (B) C D A B (C) D A B (C) D A B C D A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①図書に関する項目がないため判断は難しいが、頻繁に利用する 生徒もいるため、おおむね満足していると感じる。	A (B) C D A B C D A B C D A B C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①図書部員数が少ないため、思うように活動することができなかった。 また、読書への関心を持てるような情報発信が十分できなかった。	A B (C) D A B C D A B C D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①生徒の希望や読んでおいてほしい本を増やし、生徒の利用頻度を増やしていく。 ②図書部に入部してくれる生徒を一人でも多くするため。ポスター掲示や新入生歓迎会で宣伝する。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	渉外(生徒募集)
2	今年度目標	①本校の存在価値や特色を、パンフレットや説明会での確且つ広範囲に喧伝する。 ②中学校訪問では「報告・情報収集・相談・啓発」活動を一層充実させ、信頼関係を深める。 ③高校訪問では不応適や学力不振で挫折する生徒を救うという立場での協力関係を深める。 ④説明会や相談会では主として進路相談や教育相談を通して保護者との信頼関係を深める。
3	目標達成に向けての取り組み方法	①印象がよく、見やすくわかりやすいパンフレットを作る。また、私立合同説明会では本校の特色や良さを端的に説明する。 ②中学校との人間関係・信頼関係を構築するために、中訪や日常の相談活動を充実する。 ③4月下旬及び9月初旬に高校訪問を行い、啓発・相談活動に取り組む。 ④説明会・相談会では本校のPRでなく、相談・支援活動に力点を置く。
		評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	①パンフレットや説明会で本校のよさを伝えることができた。 (A) B C D ②全ての中学校で十分な相談活動ができたとは言えない。 A (B) C D ③高校訪問では担当者と十分な話し合いの時間が持てなかった。 A B (C) D ④会場によって参加人数に差があったが、相談はしっかりできた。 A (B) C D A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	①中学校からの評価も上々である (A) B C D ②人物重視の基準が浸透しつつある。 A (B) C D ③生徒指導部会では、本校の人物重視が徐々に浸透している。 A B (C) D ④相談・支援に力点を置いた活動の評価も良い。 A (B) C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	①かなりの成果があった。 (A) B C D ②かなりの信頼関係を築けているが、不十分な点もある。 A (B) C D ③高校との情報交換や連携はもっと深める必要がある。 A B (C) D ④参加者に対しては親切・丁寧な相談活動ができた。 A (B) C D A (B) C D
7	次年度に向けた改善策・目標	①本校のよさや特色の理解のために、パンフレットや説明会で一層効果的にアピールする。 ②生徒の現状や進路の報告、中学在校生に関する教育・進路相談をさらに充実させるためにiPadを活用し、中学校との日常的な相談体制を作る。 ③高校を訪問した際に、担当者との面談・相談の場をしっかりと設けていく。 ④回数が縮減されるが、相談活動を充実させるとともに、新たなアピールの場を模索する。

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

平成27年度 自己評価報告書

1	評価領域・分野	事務	
2	今年度目標	① 効率的な事務処理 ② 生徒・保護者のニーズに適應されながら、役割を判断し、それを実践していく。 ③ 教育環境の整備	
3	目標達成に向けての取り組み方法	① 情報の共有化をはかり、円滑に処理を進める。 ② 生徒・保護者が何を必要としているかを考え、信頼される学校づくり。 ③ 教育に関わる整備を教員ともに考え整備する。	
			評 価
4	目標及び取り組み状況に対する自己評価	① 教職員と連携を取り合い、効率的かつ合理的に事務処理ができた。 ② 業務に携わり、生徒・保護者とのコミュニケーションができたと思う。 ③ 教務システム等を導入し、整備することができた。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D A B C D A B C D
5	生徒および保護者によるアンケートに対する自己評価	① 訪問時・電話対応は適切であるについて ② 生徒に対する態度について ③ 生徒・保護者に対する事務説明について	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A B C D A B C D
6	総合的に捉えた成果・課題	① 立場や考え方が多様であるため、現状にあわせた学校運営を 実践し、信頼される学校となる。 ② 事務処理能力のスピード化。	A (B) C D A B C D A (B) C D A B C D
7	次年度に向けた改善策・目標	① 役割を判断し、実践していくことが求められる。 ② 保護者・生徒の対応に適切かつ満足感を持ってもらえるようにする。 ③ 職員の資質向上のため研修を実施する。また、業務の洗い出しを行い効率的な処理を行う。	

※評価 A・・・十分達成した B・・・おおむね達成した C・・・やや不十分 D・・・不十分

次の項目について、A～Eの該当する欄に○印を付けてください。

A. よくあてはまる B. ややあてはまる C. あまりあてはまらない D. まったくあてはまらない E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針・学校経営	1 学校の教育方針(個性によるクラス分け等)や指導の内容に共感できる。	31	41	25	3	1
	2 明るく楽しそうに学校生活を送っている	21	42	28	6	3
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	10	46	38	3	3
	4 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	37	34	28	1	1
家庭との連携	5 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けられている。	39	38	17	6	1
	6 学校と保護者との連携はしっかりとれている。	18	44	33	3	2
	7 子どもは家庭で学校でのことをよく話す。	21	32	36	8	3
教員	8 保護者が学校を訪問したり、電話した時の教員の対応は適切である。	32	39	25	1	1
	9 教員の子どもに接する時の態度は適切である。	21	45	29	1	4
	10 教員の子どもに対する指導(学習・生活・進路)に熱心さを感じる。	21	44	30	1	4
事務職員	11 保護者が学校を訪問したり、電話した時の事務職員の対応は適切である。	28	43	25	1	3
	12 事務職員の子供に接する時の態度は適切である	18	40	32	2	8
	13 事務職員による学納金等の事務説明が明確である。	23	45	29	1	2
学習指導	14 学校は基礎学力の定着・向上に努めている。	15	42	34	5	4
	15 教員は熱心に学習指導を行っている。	16	40	35	4	6
	16 レポート作成など家庭学習が定着してきた。	19	42	29	6	4
生徒指導	17 マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	15	45	33	3	4
	18 個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	21	45	29	2	3
	19 いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、発生した場合は速やかな対応がなされている。	18	37	34	0	10
進路指導	20 進路説明会などが適切に行われている。	17	47	28	2	6
	21 生徒の将来の希望や適性に沿った具体的な進路指導が行われている。	15	35	38	3	10
健康管理・安全指導	22 学校は生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	20	35	36	1	7
	23 学校は臨床心理士を配置するなど教育相談活動の充実を図り、心のケアに努めている。	21	37	37	2	4
	24 学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して子どもの安全確保に努めている。	19	37	37	2	5
	25 学校から地震や台風などの際の対応について、生徒や保護者に対応マニュアルが知らされている。	19	39	37	1	3
学校行事等	26 学校は子どもの成長の糧となるような学校行事を行っている。	21	39	29	4	6
	27 本校の生徒会活動は活発である。	9	31	46	6	8
	28 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	11	39	35	6	10
	29 本校の保護者会活動は活発である。	15	37	33	8	8

次の項目について、A～Eの該当する欄に○印を付けてください。

A. よくあてはまる B. ややあてはまる C. あまりあてはまらない D. まったくあてはまらない E. わからない

数値は割合(%)を示します

通番	項目	A	B	C	D	E
教育方針・学校経営	1 学校の教育方針や指導目標について分かりやすく説明を受けている。	26	30	40	4	1
	2 個性によるクラス分けや登校時間帯分けが行われていることで、自分の居場所を得ることができた。	34	30	29	4	4
	3 学校は一人一人の良さや可能性を伸ばすことに努めている。	18	27	40	9	6
	4 学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる。	37	31	22	6	4
家庭との連携	5 学校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けている。	48	31	10	7	4
	6 家庭で学校に関する話をしている。	28	27	27	11	6
教職員	7 先生に親しみやすさを感じている。	23	38	31	6	3
	8 先生は悩みや相談事に親切・丁寧に対応してくれる。	24	29	37	4	6
	9 事務職員の対応は親切・丁寧である。	30	23	36	8	3
学習指導	10 理解しやすい授業が行われている。	24	34	27	12	4
	11 先生は熱心に授業を行っている。	27	36	30	5	3
	12 落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができている。	35	39	20	2	3
	13 基礎学力が身に付いてきたと感じている。	16	26	38	16	4
	14 総合的な学習の時間の内容は有意義である。	19	29	41	6	5
	15 レポート作成などを含め、継続的な家庭学習を行っている。	20	28	32	14	6
生徒指導	16 マナーを身に付けることや、社会のルールを守るようにとの指導が適切に行われている。	30	32	33	4	1
	17 個性に応じた服装、頭髪等の指導が適切に行われている。	37	30	26	6	2
	18 いじめや対人トラブルが発生しないための指導がされており、もし発生した場合は速やかに対応してもらえる。	20	32	38	4	6
進路指導	19 有意義な進路説明会が行われている。	30	24	34	7	6
	20 個別の進路相談に熱心に対応してもらえる。	23	29	38	5	5
健康管理・安全指導	21 生徒の衛生面に配慮し、身体の健康維持に対する指導を適切に行っている。	25	26	39	6	4
	22 臨床心理士や養護教諭がいるので学校に安心感が持てる。	30	25	34	6	5
	23 学校は交通事故の防止活動、避難訓練などを通して安全確保に努めている。	30	26	35	8	1
	24 地震や台風などの際の対応についての指導をしっかり受けている。	27	24	39	8	3
学校行事等	25 特別活動は充実している。	25	28	34	7	6
	26 部活動が活発に行われている。	15	19	47	9	10
	27 生徒会活動は活発である。	21	25	42	5	8
	28 学校はボランティア活動の大切さを教えると同時に、その機会を提供している。	16	29	44	4	7

平成27年度 学校関係者評価委員

平成28年6月11日実施

参与

石川 宗一郎 様

ぎふ国際高等学校関係者評価委員

堀 征二 様

木之本自治会連合会長

古澤 豊吉 様

坂井町町内会長

川村 義彰 様

朝日大学教授

村橋 剛史 様

ぎふ国際高等学校保護者会会長

山内 香里 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

岩原 千保子 様

ぎふ国際高等学校保護者会副会長

岩田 美香 様

ぎふ国際高等学校学校関係者評価表

評価項目	評価	評価者からの意見等
1. 本年度の重点目標の達成状況について	<input type="radio"/> A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している <input type="radio"/> C どちらかといえば達成していない <input type="radio"/> D 達成していない	学校の目標、特色が明確になっており、それに向けて着実に努力し、成果を上げている。1つ1つの努力の積み重ねが最終的に結果になっていると感じられ、今後も継続してもらいたい。
2. 学校の自己評価表の具体的目標及び具体的方策の達成状況について	<input type="radio"/> A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している <input type="radio"/> C どちらかといえば達成していない <input type="radio"/> D 達成していない	A, Bの項目が大半を占めるが、一部Cの項目もある。項目によっては重要性の低いもの、あるいは取り組みに時間がかかるものもあり、一概に問題とは言えない。しかし、中には重点的な項目でもCとなっているものもあり、めりはりをつけた対応が必要。
3. 次年度への主な課題の把握について	<input type="radio"/> A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している <input type="radio"/> C どちらかといえば達成していない <input type="radio"/> D 達成していない	今年度あまり達成できなかった項目及びその理由について十分に把握できている。これからも問題点を見落とさないように日頃から問題を解決しようとする姿勢が大切。
4. 改善方策の策定状況について	<input type="radio"/> A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している <input type="radio"/> C どちらかといえば達成していない <input type="radio"/> D 達成していない	日々目の前の仕事で忙しく、個々の課題解決には真摯に取り組まれているが、新たな方策はなかなか打ち出せていない。抜本的な対策は難しいが、時には現場を離れて一歩引いて新たな方策を考えるようにすることが大切。
5. 「目指す学校像(生徒の基礎学力向上・基本的生活習慣の確立に向けての継続的な指導を行い、生徒〔保護者〕が安心して通う〔通わせる〕ことが出来る学校)」について	<input type="radio"/> A 十分達成している <input checked="" type="radio"/> B どちらかといえば達成している <input type="radio"/> C どちらかといえば達成していない <input type="radio"/> D 達成していない	まず学校に来られるようにするというのを第一目標にし、子どもにとって何が最も重要な教育かということが確立している。子どもや保護者の声を吸い上げる仕組みづくりに引き続き努力していただきたい。

平成27年度 学校関係者評価報告書

学校名： ぎふ国際高等学校

1 学校目標

- ・「自律・進取・創造」の校訓のもと、豊かな社会性を身に付け、地域社会人として信頼される確かな基本的生活習慣・規範意識や考え方・生き方を育成する。
- ・夢や目標をもち、社会に貢献できる自己の実現に向け、基礎的・基本的な学力の定着を図りつつ、主体的・継続的に学び続ける意欲や態度を育成する。
- ・他人の立場や思いを理解し、互いの人格を尊重し、思いやりのある言動をとることができる豊かな人間性を育成する。

学校目標に対する評価・意見

- ・全般的にBおおむね達成したとの評価が多く、学校の努力が認められていると思う。
- ・目標が明確でかつ、方策も具体化されている。
- ・今までの実績を基にした現実的な課題設定、対策内容になっている。
- ・子供のことを第一に考え、自分たちにできることは何か、今何をなすべきかを考えそれに沿って学校運営がなされている。
- ・多面的な情報発信に関して、情報発信方法の種別を挙げ、そのうちどれだけの手段でもって効果を上げたのか具体的に描かれては如何か。
- ・「授業を落ち着いて静かに受講できている。人の迷惑にならない」の項目は大変重要な点であると思います。これは特に上位項目として取り上げるべきではないかと考えます。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方策が適切か
基準1 (教育理念・目的・育成人材像等)	4.0	4.0	3.5
基準2 (学校運営)	3.3	3.3	3.3
基準3 (教育活動)	3.7	3.7	3.3
基準4 (教育成果)	4.0	3.5	3.0
基準5 (生徒支援)	3.7	3.7	3.0
基準6 (教育環境)	3.7	3.7	3.0
基準7 (生徒募集と受け入れ)	3.3	3.7	3.3
基準8 (財務)	評価対象とせず	評価対象とせず	評価対象とせず
基準9 (法令等の遵守)	評価対象とせず	評価対象とせず	評価対象とせず
基準10 (社会貢献)	4.0	3.5	3.0

3 今後の改善意見

- ・基本的に現在の方針に沿って進めてもらえればよいと思われる。
- ・
- ・

4 今後の具体的な改善方策

- ・「生徒のことを最優先に考える」姿勢の徹底。
- ・インクルーシブ教育、ユニバーサルデザイン授業の研究と実践を行う
- ・